

# 千葉経済圏の確立 目指す

## 千葉県産業特集

### 市町村の産業用地 整備

## 検討初期段階から積極支援



千葉県は石油化学など中東情勢に影響を受

「中小企業を取り巻く経済状況をのまに見て、人材確保が難しいという話が経営者から寄せ

## 経済競争力強化へ基盤整える

「中小企業を取り巻く経済状況をのまに見て、人材確保が難しいという話が経営者から寄せられて、若手賃金の確保や定着のため、昨年からの賃上げ金超過支援に取り組み、中小企業を後押しする支援制度充実

## 人材確保、中小の取り組み後押し

「千葉県は石油化学など中東情勢に影響を受け、企業や関係機関へのヒアリングを続け、影響を注視していく。金融機関の相談が寄せられており、信用保証会などと一緒に、手厚い必要支援を行うほか、資材の高騰など、企業負担が増えている現状を国に報告し、適切な施策がとられるよう働きかけ、26年度から始まったスタートアップ総受援拠出事業が好評です。同事業には非常に多くの企業が参加してくれて、交流会でお会いした企業からは親事業に関する相談や、事業顧問の新たなつながりが生まれているという声も届いています。県が持つスタートアップ支援への熱い思いを広く認識してもらい、スタートアップに携わる人々のネットワークを広げ、県内経済の競争力を高めていこう」と話している。

千葉県は、成田空港「第二の開港」や圏央道の全線開通など、拠点性が向上する契機を迎えている。一方で、中東情勢の緊迫化や長引く人手不足・物価高など企業を取り巻く経営環境は

厳しい状態が続く。こうした中、今後を見据えた地域づくりをどのように進め、同県の優位性を確保していくかについて、千葉県知事の熊谷俊人氏に聞いた。

### インタビュー

## 千葉県知事 熊谷 俊人氏

「2025年10月に新たな発着計画が発表されました。千葉経済圏の確立を基本目標の一つに掲げた。成田空港の機能強化に向けた準備が進み、今年度は圏央道の全線開通も控えている。千葉県の拠点性が高まる絶好の機会だ。いかに県内経済の活性化と雇用の最最大化に結びつけていくかが大事だ」と話している。

## 空港周辺、新たな産業拠点を形成

「昨年には東金域圏家戦略に指定されたほか、空港周辺の新たな都市圏構想も発表された。産業拠点を形成し、まちづくりを進める。また、北千野道路の整備促進や新幹線道路構想の具現化など、道路整備も力を注いでいく。特に県の北西部人口が増加している中、渋滞が頻発している。高速道路や環状道など、周辺の道路整備を加速する。」「県が観光施策をどのように進めますか、千葉「海や温泉など、千葉



「1チエンスの新設計画が国から認可された。周辺地域にとって大きなメリットだ。空港を活用した国際的な物流拠点の形成や、各種産業施設の立地など、産業用地としての魅力が高まっている。スタートアップ企業に下りたことはポジティブな受け止められている。26年度はN Rセンターが認定し、エンボトニヤの名称もSORA ON Tに決定した。県と空港が人材を出し合い、同じ口線の下でシヨンを示すことができ、今年度から産業用地の整備がスタートする。また、県から新設したほか、県の予算に空港の航空機整備地区に隣接する山形市山地区の産業用地整備費も計上されている。関係

## 成田空港機能強化・道路インフラ拡充 高まる立地優位性

「26年度の意気込みを。千葉県は今、非常に重要なタイミングを迎えている。千葉経済圏の確立という大きな目標に向かって、中長期的な目標で産業基盤を整え、経済の好循環を生み出していく。また、物価高騰や人手不足などに直面している企業に対して、いかに適切な支援ができるようにサポートを続ける。千葉の産業構造の特徴は、パラソルの良さ。これまでも日本の経済トレンドの転換に伴って投資や生産を行ってきたが、非常に多岐にわたって取り組んできた。長年にわたって取り組んできた産業拠点づくりの成果が、銚子沖の洋風力や防葉エリア、かずさカブミパークなどに結んでいる。今後とも恵まれた立地を活用し、産業を呼び込み続け、県内経済の競争力を高めていこう」と話している。

# 挑戦と技術で、日本のものづくりを次の時代へ。

吉野機械製作所は1948年の創業以来、板金加工機械の可能性を追求し続けてきました。一台の機械の進化は、工場を変え、働き方を変え、やがて社会を変えていく。地域に根ざしながら、世界の産業を支える技術を磨き続ける。それが、私たちの挑戦です。

詳しくはこちら [検索](#)

吉野機械製作所